

第10回

PRESS RELEASE 2017.7.18



演劇×ダンス×美術×音楽…に出会う、国際舞台芸術祭 フェスティバル/トーキョー17

2017年9月30日(土) → 11月12日(日) 44日間

東京芸術劇場、あうるすぽっと、南池袋公園、PARADISE AIRほか

フェスティバル/トーキョー (F/T) は、東京で開催される国際的な舞台芸術フェスティバルとして、舞台芸術の魅力が多角的に提示し、国境、世代、ジャンルを越えて多様な価値が出会い、互いに刺激しあうことで、あらたな可能性を拓くことを目指しています。第10回となるF/T17は、「新しい人 広い場所へ」をテーマとし、国内外から集結する同時代の優れた作品を主催プログラムとして14演目を実施するほか、各作品に関連したトーク、展示などを展開。その他、連携プログラムとして12演目を実施いたします。

※フェスティバル/トーキョー17は東京芸術祭2017の一環として開催されます。

www.festival-tokyo.jp



→ 広報に関するお問い合わせ

フェスティバル/トーキョー PR SUPPORT

HOW INC. TEL: 03-5414-640 FAX: 03-5414-6406

MAIL: pressrelease@how-pr.co.jp

→ ご掲載の場合の読者の方のお問い合わせ先

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

TEL: 03-5961-5202

目次

01	ごあいさつ			
02	トキトキサル 『Toky Toki Saru』	コンセプト・演出：ピチェ・克蘭チェン	ダンス	[タイ/日本]
03	『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』	作・演出：柴 幸男	演劇	[日本/台湾]
04	マレビトの会『福島を上演する』	作・演出：マレビトの会	演劇	[日本]
05	『パレスチナ、イヤーゼロ』	作・演出：イナト・ヴァイツマン	演劇	[パレスチナ/イスラエル]
アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』				
06	とうりてん 『忒利天』	構成・演出・美術：チェン・ティエンジュオ	パフォーマンス	[中国]
07	『恋の骨折り損 — 空愛①場 —』	作・演出：スン・シャオシン	演劇	[中国]
08	『秋音之夜』	出演：リー・ダイグオ、シャオ・イエンベン、ワン・モン、ノヴァハート	音楽	[中国]
09	トーク：写真、ユースカルチャー、音楽、ファッション		トーク	[中国]
まちなかパフォーマンスシリーズ				
10	中野成樹+フランケンズ『半七半八(はんしちぎどり)』	作・演出：中野成樹 ドラマトゥルク：長島 確 原案：岡本綺堂『半七捕物帳』より	演劇	[日本]
11	『アドベンチャー BINGO!!』	作・演出・出演：福田 毅	演劇	[日本]
12	『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』	作・演出・出演：遠藤麻衣	パフォーマンス / 美術	[日本]
13	ファミリー・リゲインド：ザ・ピクニック 『Family Regained: The Picnic』	構成・演出・出演：森 栄喜	映像 / トーク	[日本]
14	快快『GORILLA ～人間とは何か～』	演出：北川陽子	パフォーマンス / 音楽	[日本]
15	『十字軍芝居 — 三部作 —』	監督：ワエル・シャウキー	映像	[エジプト]
16	『実験と対話の劇場』	参加アーティスト：演劇計画・ふらっと、/ シラカン / 関田育子 / 玉城大祐 キュレーション：松田正隆	演劇	[日本]
17	アートプロジェクト・シンポジウム・その他			
18	F/T キャンパス			
19	連携プログラム			
22	フェスティバル / トーキョー実行委員会、事務局クレジット			
23	開催概要			
24	チケット情報・お問合せ			

今年も日本最大級の国際的舞台芸術の祭典、フェスティバル/トーキョー (F/T) が開幕いたします。

今や池袋の秋を彩る風物詩となった F/T は、今年で記念すべき第 10 回を迎えました。節目となる今回は、豊島区が目指す「まち全体が舞台の、誰もが主役になれる劇場都市」を体現する、多彩なプログラムを更に盛大に展開していきます。ぜひご堪能ください。

豊島区では庁舎跡地開発エリアの愛称が「Hareza (ハレザ) 池袋」に決定しました。「8 つの劇場」が織りなす、国際色豊かな“文化にぎわい拠点”が 2020 年夏、誕生します。世界が注目する 2020 年東京オリンピック・パラリンピックと軌を一にして、豊島区は「国際アート・カルチャー都市」づくりを益々力強く推し進めてまいります。どうぞご期待ください。

最後に、開催にあたり、ご尽力、ご協力いただいた、関係者の皆様、地元の商店街、企業、団体の皆様に衷心より御礼申し上げ、あいさついたします。

フェスティバル/トーキョー名誉実行委員長
豊島区長 高野之夫

2009 年にスタートした F/T は、これまで 264 以上の作品を上演し、合わせて 56 万人を超えるお客様にご来場いただきました。第 10 回となる F/T17 では、アジアの舞台芸術シーンを牽引するアーティストの国際共同製作に加え、国内・海外の様々なアーティストの作品を紹介いたします。

この国際フェスティバルの開催を通じて、東京から新しい価値を世界に向けて創造・発信するとともに、国内外各地のフェスティバルや劇場、文化機関とのネットワークをさらに強め、地域や国境を越えた文化交流に貢献することを目指し邁進して参ります。

開催にあたり、文化庁、国際交流基金アジアセンター、ご協賛企業ならびに地域の各団体をはじめ、多大なご支援・ご協力をお寄せ下さっている皆様にご場をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

フェスティバル/トーキョー実行委員長
公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問、アサヒビール株式会社 社友 福地茂雄

F/T は、世界的な文化創造都市を実現するために、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が芸術団体や NPO 等と協力して実施するプロジェクトです。

2009 年 2 月に誕生して、今年は 10 回目となります。国内外から時代を切り取る先鋭的なプログラムが集まる国際舞台芸術祭として関心を集め、芸術文化を創造できる環境が備わった東京の姿を示してきました。

昨年からは、東京都が掲げる都市型総合芸術祭である「東京芸術祭」に合流し、プログラムをより多様なものとし、新たな価値観をはくむ交流と参加の場の拡充を段階的に展開しているところです。

舞台芸術の奥深さを体感させ、可能性を探る F/T に、今年もご期待ください。

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）機構長
三好勝則

今回で F/T は 10 回を迎える。初期の 6 回のディレクションを担当し、フェスティバルの方向性を導きだした相馬千秋氏に敬意を表したい。

私たちの活動にはアートへの信頼性が絶対的に必要である。シリア難民のキャンプから発信を続ける幼い少女は「世界の人々は私たちの置かれている立場を想像してほしい」と主張している。他人に起きたことを自分の事のように感じ取れるのか、遠いところの出来事を自分の事のように感じ取れるのか、その能力を最大に磨くことができるのがアートであり、福祉や環境また平和と相互理解でさえこの能力なくては実現できない。その意味でアートは生きていく上で必要不可欠なものであり、社会のまた人間の根源に関わるものと信じている。

今回のプログラムもまた、若い世代が将来作り出す世界がどのようなものとなるのか。「新しい人 広い場所へ」、それをテーマとしている。乞うご期待。

フェスティバル/トーキョー ディレクター
市村作知雄

トキ トキ サル
『Toky Toki Saru』

コンセプト・演出：ピチェ・克蘭チェン

9月30日(土)、10月1日(日)

南池袋公園ほか

ダンス [タイ / 日本]

入場無料・予約不要

上演時間：120分(予定)

全2回公演

9/30(土) 17:00

10/1(日) 13:00



見どころ

①特設野外ステージで行なわれるF/T17のオープニング。ポップな衣裳の約40名のダンサーや出演者とDJが生み出すグルーヴが、池袋の街を極彩色の祝祭空間に変える。だれもが観て・踊って楽しめる。

②国際的に高い評価を受けるタイのダンサー・振付家のピチェ・克蘭チェンが「トーキョー」をテーマに創作。アジア各国から選ばれたダンサーと日本人ダンサー、一般公募の参加者が共演。

③注目のタイのファッションブランド「Fly now iii (フライナウスリー)」のデザイナーが衣裳を手掛ける。

タイのダンサーであり振付家のピチェ・克蘭チェンによるF/T17のオープニング公演。タイ・インドネシア・カンボジア・香港のダンサーに加え、オーディションで選出された日本のダンサー、一般から募る出演者の総勢約40名が特設野外ステージなどでダンスを披露し、池袋の街を彩る。ポップな衣裳とDJによる軽快なサウンドなど、その場にいる誰もが気軽に楽しめるだけでなく、観客を巻き込んだ参加型のシーンも用意され、子どもから大人まで、楽しむことができる。

克蘭チェンはこの演目の創作のために、数週間にわたり東京に滞在し、この街に生きる人それぞれの「歩く」という行為を通して、東京の「今」を捉えた。そして、すばやく機敏に動き、技術を駆使しつつ自然と共存する人々の姿から、この街を象徴する動物として、「サル」を挙げた。タイトルの『Toky Toki Saru』は、「前に進み続ける」東京、「素早く・賢く・集団」で生活する東京の人々の時間の意が込められ、カラフルで躍動的なサルに扮するダンサーが、ステージだけではなく、まちなかを練り歩く予定。

これまで、伝統との関係のなかで、そのスタイルを確立してきた克蘭チェンだが、今回は伝統の参照をあえて行わず、コンセプト・演出という立場から創作に挑む、初の野外作品。

日本をはじめ国内外からも注目されているタイのファッションブランド「Fly now iii」のデザイナーが衣裳を手掛け、ポップでありながらエッジの効いたその世界観がどう展開するのかも大きな見所となる。



ピチェ・克蘭チェン Pichet Klunchun

ダンサー・振付家。タイ古典仮面舞踊劇コーンの名優チャイヨット・クンマナーのもとで訓練を16歳より開始。バンコクのチュラロンコン大学で芸術・応用美術の学士号を取得後、舞台芸術を探究してきた。北米、アジア、ヨーロッパの各地で様々な舞台芸術プロジェクトに参加。フランス政府から芸術文化勲章シュバリエ章(2012)、アジア・カルチュラル・カウンシルからジョン・D・ロックフェラー三世賞(14)等を受賞。近年では、『Dancing with Death』(16)、『Black and White』(15)などが日本で上演されている。

共催：国際交流基金アジアセンター

日・タイ修好130周年記念事業

協力：公益財団法人セゾン文化財団

ASIAcenter
JAPAN FOUNDATION



THE SAISON FOUNDATION

『わたしが悲しくないのはあなたが遠いから』

作・演出：柴 幸男

10月7日(土) ~ 10月15日(日)

東京芸術劇場 シアターイースト / シアターウエスト



Photo: Hideaki Hamada



Photo: Ivy Chen

劇団「ままごと」を主宰する柴幸男が、価値観の異なる他者や未経験の出来事とどのように関係を築くのか、「距離」をテーマに新作を創作する。小豆島の高校の体育館、船上など様々な場所で演劇を通して多くの出会いを経た柴が3年ぶりに新たな劇場作品を東京で上演する。

F/Tがこれまで取り組み続けてきた震災以降の表現を受け、柴が本作のテーマとしたのは「距離」。どれだけ通信や交通手段が発展しようと、遠く離れた場所で起こる事件や災害に関心を持ち続けることが難しく、一方で近づけば近づくほどに分かりあうことは困難になる。様々な出来事や人と人との間にある距離を隣り合った2劇場を使い、同時刻にバージョンの異なる作品で表現する。俳優たちは同じフロアで繋がった2劇場を上演中に行き来し、観客は片側の客席で様々な「距離」を想像しながら観劇する。

柴は本作のために、複数回にわたり台湾に滞在し創作。日本と台湾の「距離」をヒントに、「遠く離れていたとしても、他者と遠いまま出会う方法はないのか」という問いを本作で投げかける。

楽曲は台湾の音楽家・柯智豪 (Blair KO) が作曲、衣裳は台北のファッションブランド「TRAN 泉」が手がける。F/Tと2019年開館予定の台北パフォーミングアーツセンターとの共同製作で2018年には台北演劇祭で上演を予定。



柴 幸男 Yukio Shiba

1982年生まれ、愛知県出身。劇作家・演出家・「ままごと」主宰。「青年団」演出部、「急な坂スタジオ」レジデント・アーティスト。多摩美術大学講師、四国学院大学非常勤講師。2010年『わが星』で第54回岸田國土戯曲賞を受賞。あいちトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭への参加など全国各地にて活動。今年8月には、現役高校生による『わたしの星』の再演を控えている。また「ままごと」HP (www.mamagoto.org) にて過去の戯曲を無料公開する『戯曲公開プロジェクト』を展開している。

演劇 [日本/台湾]

一般前売(整理番号付自由席) 4,000円 / 当日 4,500円、学生 2,600円 ほかセット券あり

上演時間: 80分(予定)

日本語上演 / 英語字幕

全10回公演(2劇場あわせて20回公演)

10/7(土) 19:30
10/8(日) 19:30
10/9(月・祝) 14:00 / 18:00
10/10(火) 休演日
10/11(水) 19:30
10/12(木) 19:30
10/13(金) 19:30
10/14(土) 14:00 ● / 18:00
10/15(日) 14:00

●=終演後、ワールドカフェあり。

見どころ

①場所や形態を問わない演劇活動を行い注目される劇作家・演出家の柴幸男(ままごと)が「距離」をテーマに3年ぶりの劇場作品を発表。

②隣り合った2劇場で、ひとつの作品を異なる視点から同時に上演。東日本大震災をきっかけに生まれた「遠く離れていたとしても、他者と遠いまま出会う方法はないのか」という問いを考える。

③2019年開館予定の台北パフォーミングアーツセンターとの共同製作で、2018年には台北演劇祭で上演予定。

国際共同製作：フェスティバル/トーキョー、台北パフォーミングアーツセンター

主催：フェスティバル/トーキョー、一般社団法人mamagoto(東京公演)、台北パフォーミングアーツセンター、台北芸術祭、Shakespeare's Wild Sisters Group(台北公演)

助成：台湾文化部

協力：台北市政府文化局、財団法人台北市文化基金会、台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

リサーチ・ワークショップサポート：パフォーミング・アーツ・アライアンス、CO3、台南市政府文化局

広報協力：ポーラ美術館



台北市文化局

台北市文化基金會 Taipei Culture Foundation



CO3

台南市政府文化局



マレピトの会『福島を上演する』

作・演出：マレピトの会

10月7日(土)～10月15日(日)

シアターグリーン BASE THEATER



© Keiko Sasaoka

2016年よりマレピトの会とF/Tとで始動した、長期プロジェクト『福島を上演する』の2年目。昨年は、複数人の作家が福島市へ取材に向かい、その経験をもとに複数の戯曲を執筆。4日間4ステージ、毎回異なる戯曲群をシンプルな空間で上演し、俳優の身体と戯曲によって積み重ねられた複数の出来事により、現実の模倣でも単なるテキストの再現でもない、「演劇」による福島の時間が舞台上に立ち現れた。

昨年は福島市に限定されていた取材の範囲を今年は福島県全域に広げる。また、本年は会場をシアターグリーン BASE THEATERへ移し、前回のにしすがも創造舎と全く違う小さな空間で、約12時間分の複数の戯曲を12回に分けて上演する。昨年よりも多くの戯曲によって多くの出来事が舞台上に積み重なり、都市の瞬間の風景を、より厚く立ち上げることを目指す。

劇作家、松田正隆を代表に、様々なメンバーで演劇表現の可能性を模索してきたマレピトの会のより進化した取り組みに注目が集まるであろう。

マレピトの会 marebito theater company

2003年、舞台芸術の可能性を模索する集団として設立。代表の松田正隆の作・演出により第1回公演『鳥式振動器官』を上演する。2009年以降は、集団創作に重きを置くとともに、展覧会形式での上演や、現実の街中での上演、インターネット上のソーシャルメディアを用いた上演など、既存の上演形式にとどまらない、様々な演劇表現の可能性を追求している。

マレピトの会 公式ホームページ：<http://www.marebito.org/>



松田正隆 Masataka Matsuda

マレピトの会代表。1962年長崎県生まれ。2003年より演劇の可能性を模索する集団「マレピトの会」を結成。主な作品に『cryptograph』(07)、『声紋都市—父への手紙』(09)、写真家笹岡啓子との共同作品『PARK CITY』(09)、『HIROSHIMA-HAPCHEON：二つの都市をめぐる展覧会』(10)、『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(12)、『長崎を上演する』(13～16)などがある。立教大学映像身体学科教授。

演劇 [日本]

一般前売(整理番号付自由席) 3,000円 / 当日 3,500円、学生 2,000円 ほかセット券あり
※10/7(土)、8(日)、9(月・祝)、14(土)、15(日)については1日セット券あり。F/Tチケットセンターのみ取扱い。

上演時間：60分(予定)

日本語上演

全12回公演

10/7(土) 16:00 / 19:30
10/8(日) 14:00 / 17:30 ★
10/9(月・祝) 14:00 / 17:30
10/10(火) 休演日
10/11(水) 休演日
10/12(木) 19:30
10/13(金) 19:30 ★
10/14(土) 16:00 / 19:30
10/15(日) 14:00 / 17:30

★=終演後、ポスト・パフォーマンストークあり。(予定)

※各回上演内容が異なります。

アイダミツル、神谷圭介、草野なつか、島崇、高橋知由、松田正隆、三宅一平、山田咲による複数の戯曲を上演します。

見どころ

①新たな演劇の可能性を模索するマレピトの会が、福島をテーマにF/Tとおこなう長期プロジェクトの2年目。

②複数の作家が実際に福島を取材し、スケッチしたように執筆された戯曲を何もない空間で上演。シンプルだからこそドラマの本質が浮かび上がる。

③昨年は福島市のみだった取材の範囲を今年は福島県全域に広げ、上演回数を4日間4ステージから、今年は7日間12ステージに拡大。

協力：城崎国際アートセンター(豊岡市)

企画：マレピトの会

主催：フェスティバル/トーキョー、一般社団法人マレピト



『パレスチナ、イヤーゼロ』

作・演出：イナト・ヴァイツマン

10月27日(金)～10月29日(日)

あうるすぽっと



自国の占領政策を痛烈に批判し、また痛快に描き出す、イスラエル・ユダヤ人女性作家・演出家、イナト・ヴァイツマン。パレスチナ・アラブ人の俳優を起用し、イスラエル当局によるパレスチナ人の家屋破壊を取材して創作した話題作。一度はイスラエル国家を批判する内容があるとして検閲対象となったが、昨年イスラエル国内最大のアッコ演劇祭で無事に初演を迎え、F/T14『羅生門|藪の中』でも芸術監督をつとめた、パレスチナ人俳優・ジョージ・イブラヒムがベスト・パフォーマンス賞を受賞するなど大きな話題を呼んだ。

舞台は主人公・老年の建物鑑定士の事務所。エルサレム、ナブルス、ネゲブ砂漠、ガザなどイスラエル当局に破壊されたパレスチナ人の家を調査・記録したファイルを元に、様々な家屋破壊のケースを紹介していく。すべて実際の出来事で、過去20年分にも及ぶ被害統計データは、観客に圧倒的な現実を突き付ける。作品後半では、祖国から追い出され、逮捕、収監された家族のエピソードなどを含むイブラヒム本人の半生が語られ、国家の中で翻弄され必死に生きぬくパレスチナ人の今に触れながら、民族共存のあり方を問う。

演劇 [パレスチナ/イスラエル]

一般前売(全席指定) 4,000円 / 当日 4,500円

学生 2,600円ほかセット券あり

上演時間: 60分

アラビア語(一部ヘブライ語)上演 / 日本語字幕

全3回公演

10/27(金) 19:30 ☆

10/28(土) 19:30 ☆

10/29(日) 14:00 ☆

☆=開演前、プレ・パフォーマンストークあり。
(予定)

見どころ

- ①イスラエル・ユダヤ人演出家が、パレスチナ問題をパレスチナ・アラブ人の目線から辛辣なユーモアを交えて描いた話題作。
- ②イスラエル当局によるパレスチナ人の家屋破壊を取材し創作した本作は、長年の被害事例と占領政策に苦しむパレスチナ人のエピソードをふまえて、観客に圧倒的な現実を突き付ける。
- ③一度はイスラエル国家を批判する内容があるとして検閲対象となったが、昨年イスラエル国内最大のアッコ演劇祭で無事に初演を迎え、出演のパレスチナ人がベスト・パフォーマンス賞を受賞するなど大きな話題を呼んだ。



イナト・ヴァイツマン Einat Weizman

女優、劇作家、演出家、人権活動家。1973年ハイファ生まれ。アメリカやイギリスなどで演技を学んだ後、テルアビブ大学で映像や政治学も専攻。映画、TV、演劇の主演俳優として名を馳せる一方、過去には政治・社会に関わるコラムニストとしても活動した。近年は演出・劇作家として、イスラエルの占領政策を批判するラディカルな作品を制作する。主な作・演出作品に、『Shame』(2015)、『The 112 house: A Lesson in Political Construction』(17)。



ジョージ・イブラヒム Georges Ibrahim

俳優、アルカサバ・シアター&シネマテークの創設者、ディレクター。1945年生まれ。俳優としてのキャリアを積み、ヘブライ大学で演劇を学んだ後、劇作家・演出家としても活躍。代表作に『Ramzi Abu Al Majid』(95年・カルタゴ国際演劇祭ベスト俳優賞)、『Immigrant』(99年カルタゴ国際演劇祭ベスト演出家賞及びベスト衣裳賞)など。本作でもアッコ演劇祭ベストパフォーマンス賞を受賞している。『アライブ・フロム・パレスチナ - 占領下の物語 -』(2004、II)、『壁 - 占領下の物語II』(05)のほか演出家・坂田ゆかりら日本のアーティストと共同制作した『羅生門|藪の中』(F/T14)でも来日している。

— アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』 —

様々な言語や文化が混在するアジア地域から一カ国を選定し、その国にフォーカスをあてる「アジアシリーズ」。これまでに韓国 (F/T14)、ミャンマー (F/T15)、マレーシア (F/T16) を特集してきた。4回目となるF/T17では、1978年の改革開放以降に生まれたネット世代にフォーカスをあてた中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』として、欧米への留学、国際的なアーティストとのコラボレーション、ジャンルの横断など、様々な経験をもとに、独自の表現をさぐる若手アーティストを紹介。また、写真、ユースカルチャー、音楽、ファッション、それぞれの分野のスペシャリストをゲストにトークも開催する。サブカルチャー、オンライン生配信、ストリートファッションなど、独自の文化を生み出している中国ミレニアル世代の「今」を東京に届ける。

特別協力：スーパー・デラックス



アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』

『^{とぅりてん} 忒利天』

構成・演出・美術：チェン・ティエンジュオ

11月10日(金)、11月11日(土)

あうるすぽっと

パフォーマンス [中国]

一般前売(整理番号付自由席) 3,500円 / 当日

4,000円、学生 2,300円(ほかセット券あり)

上演時間：90分(予定)

上演言語：中国語ほか(予定)

全2回公演

11/10(金) 19:00 ★

11/11(土) 19:30

★=終演後、ポスト・パフォーマンストークあり。



Photo: Qianarchy

グラフィックデザインとファインアートをイギリスで学んだチェンは、特定のジャンルにとどまることなく、ファッションデザイナーやダンサー、音楽家、またフランスのアートグループ「HOUSE OF DRAMA」など様々なジャンルとのコラボを続けている。イギリス留学時代、レイブ・カルチャーに熱狂した彼のパフォーマンスには、大音量の音楽、ボディペイントを含むファッションなど、非日常の祝祭空間を創り出すための要素が欠かせない。本作はベルリン、リスボン、コペンハーゲンで発表したクラブパフォーマンスをリ・クリエーション。クラブカルチャーと演劇をミックスさせた新作があうるすぽっとを揺さぶる。

見どころ

①北京を拠点にヨーロッパでも活動の幅を広げる次世代アーティスト、チェン・ティエンジュオ(陳天灼)の初来日公演。

②刺激的なネオンカラーや電子音楽、宗教的なシンボルなどで構成されるインスタレーション、ビデオアート、ドローイング、写真などジャンルをクロスしたパフォーマンス。

③「東洋」「中国」の要素を主張せず、グローバルなカルチャーに影響を受けた作風は、中国の上の世代の表現と一線を画す。



チェン・ティエンジュオ Tianzhuo Chen (陳天灼)

1985年北京生まれ。2009年セントラル・セント・マーチンズを卒業。10年チェルシー・カレッジ・オブ・アーツ修士課程修了。現在、北京を拠点に活動。ファッションデザイナー、ダンサーや音楽家、フランスのアートグループなど様々なジャンルとのコラボを続ける。今年はウィーン芸術週間やドイツの世界演劇祭に招聘されるなど、世界の舞台でも発表の場が増えている。現在、中国で最も勢いのあるアーティストの一人。

アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』

『恋の骨折り損 — 空愛①場 —』

作・演出：スン・シャオシン

10月28日(土)、10月29日(日)

スーパー・デラックス

演劇 [中国]

一般前売(整理番号付自由席) 2,500円 / 当日
3,000円、学生 1,600円ほかセット券あり
※ご入場の際にドリンク代として別途700円が
かかります。

上演時間: 45分(予定)

中国語上演 / 日本語字幕

全2回公演

10/28(土) 14:00 ★

10/29(日) 18:00 ★

★=終演後、ポストパフォーマンストークあり。



Photo: KillalB

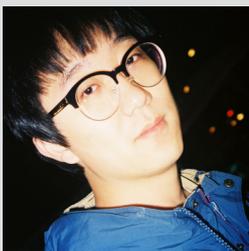
タオバオ(中国最大のオンラインショッピングサイト)で購入されたもので溢れかえり、夜は携帯電話やパソコンの明かりが浮かび上がる女の子の“墮落部屋”。作中には、シェイクスピアの『恋の骨折り損』に登場する長単語「honorificabilitudinitatibus(意味: 名誉を獲得できる / 尊敬に値する)」が引用されている。中国でも流行しているライブ配信を通して、バーチャルな空間でのコミュニケーションを楽しむ中国のミレニアルズの生活が象徴的に反映されている。

見どころ

①シェイクスピアの『恋の骨折り損』をモチーフに、作家・演出家だけでなく批評家としても活躍するスン・シャオシンが「ミレニアルズ」の生活を象徴的に描く。日本初演。

②ショッピング・サイト「タオバオ」で物欲を満たすばかりの少女たちの生活。彼女たちによるネット配信の様子と、画面の向こうの閲覧者たちによる様々な反応が同時にスクリーンに映し出されていく。

③彼女達にとっての日常であるバーチャルな世界と、確かにそこに存在している彼女たちの身体。その対比のなかに浮かびあがるものは——。



スン・シャオシン Xiaoxing Sun (孫 曉星)

1986年生まれ。劇作家、演出家、批評家。天津音楽学院で教鞭もとる。中国の小劇場やインディペンデントで活動する劇団、評論家などを総括的に紹介した著書『Re-Theatre インディペンデント演劇の都市地図』を執筆。2015年劇団 en?(这是怎么回事?怎么变这样?)を旗揚げ。16年『サイバー劇場計画』を発表。F/T14 シンポジウム「中国・北京 ～同時代の小劇場シーン」に登壇。

アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』

『秋音之夜』

出演：リー・ダイグオ、シャオ・イエンペン、ワン・モン、ノヴァハート

11月3日(金・祝)、11月4日(土)

スーパー・デラックス



日本ではほとんど紹介されない中国のミレニアル世代のミュージシャンによる貴重なライブ。中国の伝統楽器「琵琶」と西洋楽器「チェロ」を自由に操るリー・ダイグオ、VJ ワン・モンの映像と共に五感すべてを刺激するシャオ・イエンペン、中国のバンドとしてグラストンベリー・フェスティバルに初めて出演したアシッドテクノバンド・ノヴァハートの3組が登場。北京、上海、大理と中国の各地のみならずヨーロッパ、アメリカでも活躍する彼らが、東京の音楽シーンを触発する。

音楽 [中国]
一般前売(整理番号付スタンディング)
2,500円 / 当日3,000円、
学生1,600円ほかセット券あり
※ご入場の際にドリンク代として別途700円がかかります。
上演時間: 120分(予定)

全2回公演

11/3(金・祝) 19:00

11/4(土) 17:30

見どころ

- ①日本ではほとんど紹介されていない中国のミレニアル世代の実力派ミュージシャン3組を招聘。
- ②中国の伝統楽器、エレクトロニックバンドなど様々なジャンルで今の中国の音楽シーンを紹介。
- ③ヨーロッパ、アメリカでも活躍する彼らが、東京の音楽シーンを触発する。



リー・ダイグオ Li Daiguo (李 带菓)

1981年アメリカ生まれ。現在、雲南省大理在住。5歳でバイオリン、10歳で二胡、琵琶、ウッドベースを始めた。サンディエゴ州立大学で文学と音楽を専攻。中国の古典楽器と西洋の楽器を自由に操る類稀なミュージシャン。



ワン・モン Meng Wang (王萌)

ニューメディア・アーティスト。「アトミック・ビジュアル・スタジオ」創業者。シャオ・イエンペンとのコラボプロジェクト『The Shape of Sound』をドイツ、スイス、スペインなどのフェスティバルで発表。その他、中国の演劇作品に映像を提供。



Photo: Marie Stagat

シャオ・イエンペン

SHAO (Aka. Shao Yanpeng) (邵彦棚)

1981年生まれ。2002年より、エレクトロニック・ミュージシャンとして活動開始。07年、Chinese Music Media Awardsにて「ベスト・エレクトロニック・アーティスト」を受賞。世界最大のクラブフェス「アムステルダム・ダンス・イベント」など多数のヨーロッパのライブ経験もある。15年、中国のミュージシャンとしては初めてドイツのレーベル「トレゾア」と契約。演劇、ダンス作品への楽曲も提供。



ノヴァハート Nova Heart

ボーカルのフォン・ハイニン、ギターのパー・シュエン、ドラムのシー・ルーの3ピースバンド。2010年に北京で結成したバンド。エレクトロニックやオルタナティブの要素を兼ね揃えた、ポップでロックな楽曲を発表。15年、中国のバンドとして初めてイギリスの音楽フェス、グラストンベリー・フェスティバルに参加。Rolling Stones やCNN など欧米のメディアにも紹介されるなど、海外からの注目度は高い。

アジアシリーズ vol.4 中国特集『チャイナ・ニューパワー — 中国ミレニアル世代 —』

トーク：写真、ユースカルチャー、音楽、ファッション

日本のメディアがほとんど取り上げない中国の今後を牽引するミレニアルズの実態をトークでも読み解いていく。「写真」「ユースカルチャー」「音楽」「ファッション」の四つのテーマで、それぞれのプロフェッショナルをゲストに今の中国シーン、ミレニアルズの動向を聞く。

入場料 500 円

時間：120 分 (予定)

中国語 (日本語逐次通訳付)



「中国写真の世界 — ミレニアルズの写真家と自費出版の現状 —」

スピーカー：イエン・ヨウ You Yan (言 由)

書籍発行人、写真集企画者。2009年写真集出版組織“Jiazazhi”を設立。これまで20冊の写真集を企画、出版。企画、出版した写真集は、アルル国際フォトフェスティバルの写真集賞など海外の賞にノミネートされる。17年、自身の出身地寧波(ニンポー)に非営利の“フォト・ライブラリー”を開館。国内外に精力的に中国の写真や写真家を紹介している。

写真

10/28 (土) 18:00

スーパー・デラックス



「インディビジュアルライゼーション：チャイナ・ユースカルチャーの流れ」

スピーカー：チャン・アンディン Zafka Zhang (張 安定)

2008年に設立した中国の若者の生態、ユースカルチャーを研究している組織“青年志 (China Youthology)”の共同創業者。ユースカルチャー研究者。サウンドアーティスト。国内外のブランドからの依頼で若者の生態や文化をリサーチ、マーケティングを請け負っている。また、様々なイベントを開催することで、中国の若者の可能性を探っている。

ユースカルチャー

10/29 (日) 13:30

スーパー・デラックス



「ミレニアルズの音楽家 — 彼らは世界に何をもたらすのか？」

スピーカー：シェン・リーホイ Lihui Shen (沈 黎暉)

1997年に北京で設立された音楽レーベル Modern Sky の創業者。現在では、約40組の音楽家を抱える、中国でも重要なレーベルのひとつになっている。2007年より、中国各地でフェスを開催。14年より、ニューヨークでもフェスを主催するなど、国内だけでなく、海外にも精力的に中国の音楽家を紹介している。

音楽

11/4 (土) 13:30

スーパー・デラックス



「中国ファッション界とミレニアルズのデザイナーの現状 — 彼らの想いとは? —」

スピーカー：リュウ・シンシャー Tasha Liu (劉 馨遐)

1985年生まれ。セレクトショップ「長作棟梁」共同創業者。上海のファッション・フェスティバル「LABELHOOD」ディレクター。2015年と16年には「The People Shaping the Global Fashion Industry (世界のファッション業界を形成する人たち) BoF500」トップ500にランクイン。中国のファッション界を牽引するミレニアルズのリーダーといえる。

ファッション

11/11 (土) 14:00

あうるすぽっと ホワイエ

まちなかパフォーマンスシリーズ

まちなかの様々な場所で、演劇、美術、パフォーマンスなどの演目を実施するシリーズの2回目。場所が持つ固有の歴史やそこから生まれた物語、さらには現在の東京に流れる時間が持つ雰囲気や舞台に取り入れながら、まちなかでしか成り立たない作品を作り出すF/Tの新しい試みである。観客が劇場へ赴くのではなく、演劇がまちの中へ入っていく仕組みを、既存の演劇の枠を超える複数のアーティストと創造する。

まちなかパフォーマンスシリーズ

中野成樹+フランケンズ『半七半八(はんしちきどり)』

作・演出: 中野成樹 ドラマトゥルク: 長島 確 原案: 岡本綺堂『半七捕物帳』より

10月6日(金) ~ 10月9日(月・祝)

PARADISE AIR、FANCLUB(受付) ほか

演劇(ツアー形式) [日本]

一般前売 3,500円 / 当日 4,000円、

学生 2,300円 ほかセット券あり

上演時間: 150分(予定)

日本語上演

全7回公演

10/6(金) 15:00

10/7(土) 11:00 / 15:00

10/8(日) 11:00 / 15:00

10/9(月・祝) 11:00 / 15:00

※野外上演を含む。



photo Yusuke Abico

古今東西の戯曲を現代に置き換え、新たな作品として生まれ変わらせる演出で知られる中野成樹+フランケンズによる新作を発表する。今回は千葉県松戸市にある世界的に知られるアーティスト・イン・レジデンスのPARADISE AIRや、屋内・屋外を問わず松戸市内のいくつかの場所を公演会場として使用する。観客は松戸市内を歩きながら複数の会場へ行き、観劇する形態になる予定だ。上演される作品の内容は近代日本における時代小説、探偵小説の傑作といわれる岡本綺堂の『半七捕物帳』をベースにする『半七半八(はんしちきどり)』。様々な謎を松戸市内にどのように忍ばせるのか、中野成樹の演出に期待が高まる。松戸市でのリサーチや滞在を経て、その土地でしか生まれない上演作品を作り上げる。

見どころ

① F/T13『四谷雑談集』+『四家の怪談』では独特の上演形態が注目され、演劇の可能性を拡張したナカフラが新作を発表する。

② 千葉県松戸市内にある世界的に知られるレジデンス施設 PARADISE AIR や複数の会場を使用し、まち全体を舞台として上演を実施する。

③ 近代日本における時代小説、探偵小説の傑作である岡本綺堂の『半七捕物帳』をベースにして、様々な謎を解決していく演出に期待が高まる。



中野成樹+フランケンズ Shigeki Nakano + Frankens

2003年結成。通称ナカフラ。時代・文化風習等が現代日本と大きく異なる、いわゆる「翻訳劇」をとりあげ、「いまの自分たちの価値観と身体」で理解し体現する。大胆なアレンジに応援もいただくが、原作ファン、および伝統に与する演劇ファンからのお叱りも多い。10年より外の刺激+フランケンズ(通称:ソトフラ)名義で、劇場外にて応用演劇活動も展開中。
<http://frankens.net>



中野成樹 Shigeki Nakano

1973年、東京生まれ。舞台演出家。中野成樹+フランケンズ主宰。日本大学芸術学部演劇学科専任講師。舞台作品創作と共に、近年は教育、地域活動にも視野を広げる。最近の主な作品は『えんげきは今日もドラマをライブする vol.1』(16)、『ナカフラ演劇展1・2』(12, 15)。最近の主な活動は、としまアート夏まつり『おばけ教室』(13-16)、文化庁「日中韓文化芸術教育フォーラム WS」(14)、ほか。F/Tへの参加は『四谷雑談集』+『四家の怪談』(13)がある

主催: PARADISE AIR、フェスティバル/トーキョー

協力: 松戸市、株式会社浜友商事、株式会社まちづくりクリエイティブ

文化庁 平成29年度 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業 (PARADISE AIR 事業)



まちなかパフォーマンスシリーズ

『アドベンチャー BINGO!!』

作・演出・出演: 福田 毅

10月14日(土) ~ 11月12日(土)

東京芸術劇場 アトリエウエスト、あうるすぽっと ホワイエ



中野成樹+フランケンズの俳優としても活躍している福田毅の作・演出による新作を発表する。劇団の活動とは別にこれまで多くのソロパフォーマンスを創作してきた福田が、今回は観客とのコミュニケーションに重点を置いた「ビンゴ大会」演劇を構想。

2016年のまちなかパフォーマンスシリーズでは通信販売をテーマした演劇作品『ふくちゃんねる』を上演し、多くの反響を呼んだ福田の新作ということで期待が高まる。

今回ビンゴ大会に参加できるのは公演につき少人数となり、福田との直接的なコミュニケーションの時間を楽しめることになる。ビンゴで出た数字によって決められる演目は、福田が創作した話や誰もが知る民話、童話、都市伝説など、多岐にわたる。その全てを、福田がひとりで演じる。どの演目が選ばれるかは参加者次第となり、各回異なる作品の仕上がりを楽しむことができるだろう。ビンゴになった観客には福田特製の景品をプレゼント。



福田 毅 Takeshi Fukuda

俳優。中野成樹+フランケンズ所属。2003年のカンパニー旗揚げ当初からほぼ全作品に出演。また、ソ・ヒョンソク『From the Sea』(F/T14)など、客演も多数。09年よりソロパフォーマンスを開始。虚実ないまぜの独特の語り口で観客を魅了する。15年にはTwitterに書き溜めた寓話を構成した新作『鷹』、カモ・カフェ(にしがも創造舎)仕様にアレンジした『かも』を発表。16年にはF/Tまちなかパフォーマンスシリーズで『ふくちゃんねる』を上演した。

© Takaki Sudo

演劇 [日本]

一般前売 1,500円 / 当日 2,000円、

学生 1,000円ほかセット券あり

おみやげ付

上演時間: 40分(予定)

各回定員 5名(予定)

日本語上演

全 24 回公演

10/14(土) 12:30 / 15:30 / 18:30

10/15(日) 12:30 / 15:30 / 18:30

東京芸術劇場 アトリエウエスト

10/27(金) 12:00 / 15:00 / 18:00

10/28(土) 12:00 / 15:00 / 18:00

10/29(日) 12:00 / 15:30 / 18:00

11/9(木) 14:00 / 17:00 / 20:00

11/10(金) 11:00 / 14:00 / 17:00

11/11(土) 12:30 / 17:30 / 20:30

あうるすぽっと ホワイエ

見どころ

① F/T16のまちなかパフォーマンスシリーズで『ふくちゃんねる』を上演した福田毅が再登場。

② 昨年はテレビショッピングを模したスタイルで架空の商品を販売していた福田が、今年目をつけたのはカードゲーム「ビンゴ」。

③ 25個の番号それぞれに、福田が創作した話や民話、童話、都市伝説などのエピソードが振られており、福田のリードと観客の選択によってゲームが進行され、無数にあるバリエーションからその場その時限りの物語が生まれる。

まちなかパフォーマンスシリーズ

『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』

作・演出・出演：遠藤麻衣

10月26日(木) ~ 10月29日(日)

ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター



俳優、美術家として活動する遠藤麻衣の新作を発表する。遠藤はこれまでに、作品を作・演出しつつ自身が出演し、パフォーマンスをおこなってきた。近年は西洋絵画をモチーフにしながらも、現代の女性が感じる社会的な問題を取り上げている。

今回遠藤は2015年に制作した『アイ・アム・フェミニスト!』の続編となる『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』を新たに発表する。テーマは前作同様に「フェミニズム」。本作では、結婚を機に生じる苗字の変更や、その他に生じる様々な問題をクローズアップする。

また、結婚契約書を独自に作成し、遠藤と夫で美術家の村山悟郎が契約を結ぶ過程も描かれる。夫婦間で通常では書面にせず、暗黙の了解のまま取り交わされる事柄を公にする試みだ。

本作は東京ドイツ文化センター内にあるアパートに遠藤と村山の2人が滞在しながら製作をおこなう。アパートでの展示と他の空間で結婚式のパフォーマンスをおこなう2部構成の公演となる。

パフォーマンス / 美術 [日本]

一般前売(整理番号付自由席) 2,000円 / 当日

2,500円、学生 1,300円ほかセット券あり

パフォーマンス上演時間: 30分(予定)

日本語上演

全8回公演

10/26(木)

パフォーマンス 17:00 / 19:00

展示 16:00 - 21:00

10/27(金)

パフォーマンス 17:00 / 19:00

展示 16:00 - 21:00

10/28(土)

パフォーマンス 13:00 / 15:00

展示 12:00 - 17:00

10/29(日)

パフォーマンス 13:00 / 15:00

展示 12:00 - 17:00

※野外上演を含む。

見どころ

①俳優・美術家として活躍し、演劇的手法を用いた映像やパフォーマンスで注目を集めている遠藤麻衣。

②本作は典型的なフェミニスト像を自身が演じることで、今日のフェミニズムをシニカルに描いた「アイ・アム・フェミニスト」(2015)の続編にあたる。

③婚姻にまつわる手続きや結婚式のプロセスにクローズアップすることで、男性主体によって表象される女性像に問いを投げかける。



遠藤麻衣 Mai Endo

俳優、美術家、「二十二世」主宰。1984年兵庫県生まれ、東京在住。現在、東京藝術大学美術研究科博士後期課程に在籍。「演じる」というテーマを軸に、美術や演劇など領域横断的な活動を展開している。主な展覧会に『MOT アニュアル2016 キセイノセイキ』(2016)、『ボクは神の子を妊娠した。』(15)、『アイ・アム・フェミニスト!』(15)。

また、主な出演に sons wo『シティIII』(17)、二十二世『へんなうごきサイファー』(14-)、岡崎藝術座『イスラ!イスラ!イスラ!』(16)、岸井大輔『始末をかく』(13-18)、西尾佳織『透明な隣人 ~8-エイト-によせて~』(F/T14) などがある。

<http://www.maiendo.net/>

特別協力：ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター



まちなかパフォーマンスシリーズ

ファミリー・リゲインド:ザ・ピクニック

『Family Regained: The Picnic』

構成・演出・出演: 森 栄喜

11月3日(金・祝)～

あうるすぽっと 会議室 B、池袋西口公園

映像 / トーク [日本]



© Eiki Mori. Courtesy of KEN NAKAHASHI

写真家の森栄喜は、自身のパートナーと出会ってからの1年間を撮影した写真集『intimacy』で第39回木村伊兵衛写真賞を受賞。その他に、近い同性の友人を撮影する写真『tokyo boy alone』などでも知られている。近年、森は同性婚をテーマにしたパフォーマンス『Wedding Politics』をおこない、東京都内の路上で結婚記念の写真を他者に撮影してもらうことで、現代の日本では認められていない同性婚への強いメッセージを訴えた。今回は「家族」をテーマにした映像作品を豊島区のまちなかで創作し、展示をおこなう。日本の法では認められていない同性同士や多様な家族の在り方をどのように受け入れるかを観客が考えるきっかけになるだろう。衣裳はマレーシア出身のモト・ゴートキンダー・エングによる、世界的に注目されているメンズファッションブランド MOTO GUO が担当する。

■トーク

11/3 (金・祝) 18:00

あうるすぽっと 会議室 B

参加費: 500 円

時間: 90 分

■映像

池袋西口公園

無料

上映時間: 20分程度の映像を繰り返し再生(予定)

※スケジュールの詳細は決まり次第、F/T公式HPにて発表します。

見どころ

- ①雑誌や広告など様々な媒体で活躍し、自身の恋人や友人との親密な関係性を捉えた写真集で2014年に木村伊兵衛写真賞を受賞した森栄喜がF/Tに初登場。
- ②同性婚をテーマに写真と映像で訴えるプロジェクト『Wedding Politics』を経て、同性同士カップルと子どもの家族像をテーマに創作に取り組む。
- ③池袋のまちを歩きかう人々に、カメラを手渡し、森自身ともう1人の男性とその子どもの三人を写真におさめてもらうことで、他者との関係を結んでいく。その様子の映像を豊島区内に展示。



森 栄喜 Eiki Mori

写真家。パーソンズ美術大学写真学科卒業。2014年、写真集『intimacy』(ナナロク社)で第39回木村伊兵衛写真賞受賞。その他の著書に『Crows and Pearls』(edition.nord)、『tokyo boy alone』(レポリューション・スター・パブリッシング 台湾)。他に同性婚をテーマにしたパフォーマンスを記録した映像作品『Wedding Politics』シリーズがある。新作『Family Regained』(ナナロク社)が今秋刊行予定、同タイトルの個展をKEN NAKAHASHI(9月、東京)、NADiff Gallery(10月、東京)で開催予定。

<http://www.eikimori.com/>

まちなかパフォーマンスシリーズ

快快『GORILLA ～人間とは何か～』

演出：北川陽子

11月12日(日)

池袋西口公園



Photo: Kazuya Kato

パフォーマンス / 音楽 [日本]

入場無料・予約不要

上演時間：40分(予定)

※野外上演。雨天決行、荒天の場合は会場を変更して実施します。

11/12(日) 13:00

見どころ

① 演劇という枠におさまらない活動を続ける快快が、池袋西口公園を会場にして、誰でも楽しめる無料のパフォーマンスを実施する。

② F/T09 秋で登場し様々なアーティストとコラボレーションした GORILLA が再び登場。今回はミュージシャンの演奏に合わせて踊り続ける。

③ 俳優が GORILLA を演じることで生まれる違和感、あるいは近似した部分を見ることで「人間とは何か」を観客に問いかける。

演劇という軸を持ちながらも、既存の境界や枠を崩す表現をおこないながらパフォーマンスの概念を常にアップデートし続ける集団、快快。メンバーそれぞれが得意とすることを取り入れながら演出されるこれまでの作品は、多くのファンを魅了してきた。他に類を見ないユーモアと社会的な強いメッセージを兼ね備えた表現は国内外問わずに評価されている。

近年では、東京都内のホテルのスイートルームにて『CATFISH』を上演。その場所でしか生まれえない独自の物語を作り出し、大きな反響となった。

今回は F/T09 秋に登場した GORILLA が再登場し、ミュージシャンとのコラボレーションをおこなう。俳優が GORILLA を演じることで生まれる違和感、あるいは近似した部分を見ることで「人間とは何か」を観客に問いかける。東京芸術祭のプレイベントを飾ることになるバージョンと、F/T でおこなうバージョンの2つで完結する作品となる予定だ。池袋西口公園を会場にして、不特定多数の観客が観劇できる形態の上演を繰り広げる。



快快 FAI FAI

2008年結成。東京を中心に活動する劇団。10年『My name is I LOVE YOU』でスイスのチューリヒ・シアター・スペクタクルにてアジア人初の最優秀賞受賞。12年『りんご』が第57回岸田國士戯曲賞候補となる。ハイバイ岩井秀人氏を演出に迎えた『再生』(15)では2,000名を超える動員を記録。ホテルのスイートルームを貸し切って上演した最新作『CATFISH』(17)も話題を呼んだ。

<http://faifai.tv>

『十字軍芝居 — 三部作 —』

監督：ワエル・シャウキー

10月14日(土)～10月16日(月)

池袋 HUMAX シネマズ



© Wael Shawky; Courtesy the Artist and Lisson Gallery

エジプト出身のアーティスト、ワエル・シャウキーによる『十字軍芝居』は、操り人形を用いた中東、アラブの視点から見た十字軍の歴史を描いた映像作品。十字軍遠征の初期 1096-99 年を描いた第一部『ホラー・ショー・ファイル』(2010)、1099-1145 年の第二部『カイロへの路』(12)、第三部『聖地カルバラーの秘密』(13) からなる三部作。アミン・マアルーフ著『アラブが見た十字軍』に触発された本作は、十字軍の時代に起きた物語を、実際の戦場跡地を再現した映像を背景に、クルアーンに記された古典アラビア語で表現。200 年前のイタリアの木製人形や、ヴェネチアン・ガラスや粘土で製作された特注の人形が、ドラマチックさとシニカルさが融合した雰囲気を作り出している。

アラブ世界の視点から再構成、再解釈された十字軍の物語の中に、現代の政治的状況が浮かびあがり、欧米中心の歴史観に疑問を投げかけている。世界演劇祭や MoMA PSI、ヨコハマトリエンナーレ 2017 など、各地で上映され、世界的に注目を集めている。

十字軍遠征とは

11 世紀末から 13 世紀にかけて、聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するため、8 回以上にわたって西欧キリスト教徒が東欧、中近東各地に向けて行った軍事遠征。



© Wael Shawky;
Courtesy the Artist and Lisson Gallery

ワエル・シャウキー Wael Shawky

1971 年、エジプト・アレクサンドリア生まれ。アレクサンドリア大学で美術を学んだ後、2000 年にペンシルバニア大学で MFA を取得。映画、絵画、パフォーマンスなど、さまざまなメディアを通じ、アラブ世界のリアルと空想の歴史と物語を表現する。彼の重層的な再構成と再解釈により、観客はリアル、神話、ステレオタイプの問題に触れることになる。シャウキーは自分自身を、文明の歴史を芸術として形づくり、昇華させる通訳士であるといっている。

映像 [エジプト]

一般前売・当日 1,800 円、学生 1,500 円、

高校生 1,500 円

※チケットは池袋 HUMAX シネマズのみ取扱

上演時間：225 分

(第一部 30 分、第二部 60 分、第三部 120 分
途中休憩 15 分あり)

アラビア語上映 / 日本語・英語字幕

全 3 回上映

10/14 (土) 19:05

10/15 (日) 19:05

10/16 (月) 19:05

見どころ

①世界のアートシーンで注目を集めるシャウキーの代表作『十字軍芝居』の三部作を日本初完全上映。

②アラブ世界の視点から十字軍の歴史を描いた本作。欧米中心の歴史観に疑問を投げかけ、普遍的な強いメッセージが込められている。

③イタリアの 200 年前の木製人形や、ヴェネチアン・ガラスや粘土で製作された精巧な人形の細やかな動きや表情によって、美しく壮大な世界観が表現されている。

特別協力：株式会社ヒューマックスシネマ

協力：リッソンギャラリー

HUMAX CINEMA

『実験と対話の劇場 - 新しい人 / 出来事の演劇 -』

参加アーティスト：演劇計画・ふらっと、 / シラカン / 関田育子 / 玉城大祐
キュレーション：松田正隆

11月3日(金・祝) ~ 11月5日(日)

あうるすぽっと



© Tadashi Ueda

「実験と対話の劇場」は今年より始動する、若手アーティストたちとの新たなプロジェクト。共にプロジェクトに取り組むのは立教大学映像身体学科で教鞭をとるなど若手アーティストの創作の場に多く立ち会ってきた松田正隆。松田の掲げる「出来事の演劇」を、これからの演劇を問う上でのひとつの物差しとして定め、その上演と、それに対する批評と討論を行い「これからの演劇を問う場」をつくりだす。上演を行うのは、多摩美術大学在籍の学生たちで構成されるシラカン、青年団演出部に所属する玉城大祐、松田の教える映像身体学科の関田育子、演劇計画・ふらっと、の4組。いずれも20代のアーティスト達で、今後の活動を期待されている。次の世代の担い手と共に「出来事の演劇」について思索していくことは、自ずとF/Tの枠を超え、この先の現代演劇を考えることにつながっていくだろう。

演劇 [日本]

一般前売(整理番号付自由席) 2,500円 / 当日 3,000円、学生 1,600円ほかセット券あり

上演時間:135分(途中休憩15分あり)(予定)

ディスカッション:60分(予定)

日本語上演

A: 関田育子 / シラカン

B: 演劇計画・ふらっと、 / 玉城大祐

■ 11/3 (金・祝)

14:00 A+ ディスカッション

■ 11/4 (土)

12:00 B+ ディスカッション

17:00 A+ ディスカッション

■ 11/5 (日)

14:00 B+ ディスカッション

見どころ

① F/Tが、マレビトの会代表・松田正隆と共に新たに始動する若手アーティストとのプロジェクト。

② 「出来事の演劇」を軸に、各アーティストによる60分の上演と、それに対する批評とディスカッションを展開。「これからの演劇を問う場」をつくりだす。

③ F/Tと松田により選出された、シラカン、関田育子、玉城大祐、演劇計画・ふらっと、の20代を中心とする4組が「試される」のではなく「試す」ことを重視。

参加アーティストプロフィール



Photo: Tomoya Yanagida

■ 演劇計画・ふらっと、 Furatto,

2017年、劇作・我妻直弥の戯曲を演出・福井歩が上演するために発足した演劇プロジェクト。寄り道するように演劇に関わる、つくり手・観客の立場を問わないフラットな創作・上演の場の構築をコンセプトとし、活動していく。



Photo: Saki Kojima

■ 関田育子 Ikuko Sekita

1995年栃木県生まれ。立教大学現代心理学部映像身体学科、在学中。2016年に、同学科教授・松田正隆氏が代表をつとめる「マレビトの会」のプロジェクト・メンバーとなる。フェスティバル/トーキョー16主催プログラム『福島を上演する』に演出部として参加する。「映身展2017」では、演劇作品『自然劇場 A peep show』(作/演出)を上演した。



■ シラカン Shirakan

「焦るのが嫌だから ゆらゆらと溺れているのに 肉も野菜も、魚も好きで 黒がカラフルに見えてくるのがシラカンです。」

主な実績として2016年9月、『永遠とわ』が東京学生演劇祭にて審査員個人賞と大賞、佐藤佐吉賞2016にて優秀作品賞受賞。17年2月、『永遠とわとは』が第2回全国学生演劇祭にて審査員賞・観客賞・大賞を受賞し、三冠を達成する。



■ 玉城大祐 Daisuke Tamaki

青年団演出部所属、こまばアゴラ劇場制作 / プログラムオフィサー。1988年9月16日生まれ。大阪府豊中市出身。京都教育大学教育学部卒業。2011年より京都のライブハウスを拠点にパフォーマンスを発表。3年間で上演した短編11本、長編2本全ての作・演出を担当。16年より青年団演出部所属。

アートプロジェクト・シンポジウム・その他



Photo: Hiroyuki Kojima

『ノントコヨ 非常世』

コンセプト・構成：ノントコヨのためのチーム
ドラマトウルク：長島 確

11月4日(土)、11月5日(日)

BUoY 北千住アートセンター

いまの若者たちはこの社会とどんな関係を結ぶのか。黙って自らを最適化するのか。声を上げて戦うのか。それとも静かに離脱するのか。離脱するとしたら、それはどのレベルの話だろうか。社会から？ 国家から？ 世界から？ 人間であることから？ この非常事態の常態化した世界から、ほんの一瞬抜け出すための異世界を、日本と韓国の学生たちがワークショップを通して探る。

アートプロジェクト [日本 / 韓国]

入場料：500円 途中入退場自由

11/4(土) 11:00-17:00

11/5(日) 11:00-17:00

主催：フェスティバル/トーキョー、韓国芸術総合学校

協力：東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科長 島確研究室、日本大学佐藤慎也研究室

後援：韓国文化体育観光部

K ARTS
한국예술종합학교

シンポジウム「劇評の今から見る、国際フェスティバル事情」

登壇者：野田 学(明治大学教授、AICT/IATC 日本センター会員、『シアターアーツ』編集部) ほか

10月9日(月) 早稲田大学戸山(文学部) キャンパス 33号館3階第1会議室

国際演劇評論家協会に属する国内外の評論家を招き、海外フェスティバルの現状や各国の劇評の今/役割を紹介しながら、海外進出に向けて、国際フェスティバルの役割について討論する。



10/9(月) 14:00-17:00 途中入退場自由

入場料：無料(予約優先)

主催：フェスティバル/トーキョー、国際演劇評論家協会(AICT/IATC) 日本センター、早稲田大学文学部演劇映像コース

特別講座「アラブ演劇の現在」

登壇者 ガンナム・ガンナム(劇作家・演出家・アラブ演劇協会(ATI) 出版広報部マネージャー)

国際演劇協会(ITI) 日本センターは12月、ガンナム・ガンナム作『朝のライラック(ダイシュ時代の死について)』をリーディング公演で紹介する。これに先駆けて作家が来日。来年10度目の開催を迎える「アラブ演劇フェスティバル」などATIの活動とアラブ演劇のいまを語る。



10/6(金) 18:30

10/7(土) 14:00

入場料：500円(予約優先)

東京芸術劇場アトリエーエスト

主催：国際演劇協会日本センター

共催：フェスティバル/トーキョー

F/T トーク

作品への理解を深め、世界の演劇の「今」を知ることができる、さまざまなトーク企画を実施。追加のプログラムは随時ウェブサイトなどで発表予定。

「建築とデザインからみるフィクションの可能性」

登壇者：tomito architecture、阿部太一(GOKIGEN)

10/13(金) 19:00

入場料：500円(予約優先)

東京芸術劇場 アトリエーエスト

展示

F/T17や上演演目まつわる展示をおこなう。

豊島区立中央図書館 9月23日(土)～11月23日(木)(休館日を除く)

豊島区庁舎まるごとミュージアム 9月1日(金)～10月30日(月) ※閉庁時を除く

F/T ステーション

10月4日(水)～10月15日(日) 12:00-20:00 東京芸術劇場 アトリエーエスト、アトリエウエスト、ロワー広場など

※上記時間帯はオープンしている時間帯です。イベントがある際には、その限りではありません。

会期中の約2週間、フェスティバルの入り口として来場者を緩やかに巻き込み、多様な切り口から舞台芸術と出会う空間が登場。本年は東京芸術劇場アトリエーエストに加え、アトリエウエストを使用し、フロア全体でフェスティバル感を演出する。フェスティバルの最新情報の紹介だけでなく、F/T参加アーティストによる選書や、F/Tのこれまでの歴史をたどれるアーカイブ機能を設置予定。またトークイベント・上映会など、フェスティバルや演目についての理解を深め、人々の交流をつくる関連企画を実施していく。



F/T サポーター

F/Tを応援し、一緒に盛り上げるボランティア・スタッフ「F/Tサポーター」。F/Tで実施される事業(連携プログラムは除く)の運営サポートや、プロジェクトのサポートなど、フェスティバルに新たな魅力をもたらしている。サポーターには興味を持った段階でいつでも登録することができ、活動に参加可能。現在300名以上の登録があり、観客としてフェスティバルを体験するだけではない、多彩な活動を行っている。



Photo: Kazuya Kato

F/T キャンパス

10月6日(金)～10月9日(月・祝)



Photo: Kazuya kato



Photo: Kazuya kato

文化政策や芸術・演劇に関心をもつ学生が、共に学び、交流する合宿ワークショップ「F/T キャンパス」。全国各地から集った仲間と未来を切り開いていく試みとして企画され、公募で選出された参加者が対話しながら濃密な4日間を過ごす。

プログラムは主に「観劇」「トーク」「選択ゼミ」の3本柱で構成。主催演目の3公演を観劇(予定)し、特別に参加者のみに向けたトークを実施。作品について率直な質問を投げかけることができる贅沢な時間になるだろう。選択ゼミでは実技、文化政策、理論・評論の3コースを開講。振付家・演出家の白神もも、美術家の長峰麻貴をはじめ、第一線で活躍する専門家を講師に迎え、大学の専攻とは異なる分野に挑戦する機会をつくる。

期間中、参加者は寝食を共にしながら、昼夜問わず自身の芸術観、将来について語り合う。志をともにした同世代の仲間との出会いは、社会と向き合うことによって葛藤する参加者の未来の芽を育むだろう。

募集人数：約30名

※定員を上回る場合は、書類選考にて決定

参加費：15,000円(チケット代金、宿泊費、交流会費含む)

スカラシップ参加費：5,000円

宿泊場所：国立オリンピック記念青少年総合オリンピックセンター宿泊棟

応募資格

- ・学生であること(大学生、大学院生、専門学生)
- ・3泊4日の合宿プログラムに参加できること
- ・終了後1ヶ月以内に1000字程度の振り返りレポートを提出できること(レポートは冊子にまとめる予定)

見どころ

①全国から集った学生同士が交流

②大学の学びと異なる分野にチャレンジする「選択ゼミ」を開講

③アーティストとの特別トークを開催

講師プロフィール



©北川純妹

白神ももこ Momoko Shiraga

振付家/演出家/ダンサー。ダンス・パフォーマンス的グループ「モモンガ・コンプレックス」主宰。全作品の構成・振付・演出を担当。無意味・無駄を積極的に取り入れユニークな空間を醸し出す作風には定評がある。F/T14では美術家毛利悠子、音楽家宮内康乃とストラヴィンスキーの『春の祭典』を手がけた。子どもから大人まで老若男女問わず一般向けのダンスワークショップや教職員向けのワークショップなども行っている。

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみアソシエイトアーティスト、急な坂スタジオサポートアーティスト。2017年度セゾン文化財団ジュニアフェロー。四国学院大学非常勤講師。



Photo: Kazuya Kato

稲村太郎 Taro Inamura

(株)ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室。1976年生まれ。大学卒業後、民間の複合文化施設で現代美術の展示会の企画・制作を担当。現在、株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室の研究員、公益財団法人セゾン文化財団のプログラム・オフィサーを務める。文化政策では、事業評価やアーティストのモビリティに関するリサーチを行っている。



Photo: Kazuya Kato

萩原 健 Ken Hagiwara

明治大学国際日本学部教授。1972年東京都生まれ。研究テーマは20世紀以降のパフォーミング・アーツ、その歴史と異文化間交流(主に日本とドイツ)。著書に『演出家ピスカートアの仕事ドキュメンタリー演劇の源流』、共訳にフィッシャー・リヒテ『パフォーマンスの美学』ほか。これまでF/Tが招聘したリミニ・プロトコルの作品群を中心に、戯曲翻訳、通訳、字幕翻訳・制作・操作も多く手がける(萩原ヴァレントヴィッツ健。『資本論第一巻』(F/T09春)には出演)。



長峰麻貴 Maki Nagamine

舞台美術家/アーティスト。東京生まれ福岡育ち。武蔵野美術大学大学院空間演出デザイン学科修了。劇団四季演出部を経てフリー。空間を主体としたデザイン・アート活動を行う。テアトリカルイデア代表。武蔵野美術大学非常勤講師。主な作品は、「新羅生門」(横内謙介演出)、「星の王子さま」(ペーター・ゲスナー演出)、「おばけリンゴ」(橋本昭博演出)、「遠くから見ていたのに見えない」(白神ももこ演出)「CLUB JAZZ 屏風」(巻上公一プロデュース)。2009,10,11年日本ディスプレイ協会ディスプレイデザイン賞入選。第43回伊藤素明賞新人賞受賞。

連携プログラム

フェスティバル/トーキョー17の会期中の2017年9月から11月にわたって、都内および東京近郊で開催される公演の中でも、とりわけ高い現代性と豊かなオリジナリティを持つ国内外の演劇やダンスの12演目を、FT17連携プログラムとして紹介する。

バルコ・プロデュース

エバ・ジェルバブエナ フラメンコ舞踊団 『¡AY! アイ!』 『Apariencias 仮面』

作・演出・振付・舞踊：エバ・ジェルバブエナ 音楽監督・ギター：パコ・ハラーナ

『¡AY! アイ!』9月16日(土)、『Apariencias 仮面』9月17日(日)

Bunkamura オーチャードホール

エバが踊ると誰もが思い出すのだ。心の奥底に眠る、言葉にならない感情を。

マイヤ・プリセツカヤに「現在最高のフラメンコ舞踊家」と称され、ピナ・パウシュ、シルヴィ・ギエムらとの共演でも知られる現代フラメンコを代表する舞踊家、エバ・ジェルバブエナが3年ぶりに来日！ 日替わりで『¡AY! アイ!』『Apariencias 仮面』の2作品を上演。

主催：株式会社バルコ

お問合せ：チケットスペース 03-3234-9999

<http://www.parco-play.com/>

バルコ・プロダクション

『この熱き私の激情～それは誰も触れることができないほど激しく燃える。あるいは失われた七つの歌』

原作：ネリー・アルカン 翻案・演出：マリー・ブラッサール

11月4日(土)～11月19日(日)

天王洲・銀河劇場

女であることの戸惑いと怒り、コンプレックス、生きることの辛さと悲しみ、矛盾、無力感と孤独。死へと向かう様子を6人の女優とダンサーが演じる。

36歳で人生の幕を閉じた作家、ネリー・アルカンが書き綴った小説をコラージュ。R・ルバージュと長年コラボレートしてきたM・ブラッサール演出で2013年にカナダ・モントリオールにて初演され、絶賛。本公演はその日本語プロダクション。松雪泰子他、実力派女優とダンサーが肉体、言葉を駆使し、心に渦巻くパッションを舞台に映し出していく。

主催：株式会社バルコ

お問合せ：バルコステージ 03-3477-5858

(月～土 11:00-19:00 日・祝 11:00-15:00)

<http://parco-play.com>

さいたまゴールドシアター

『薄い桃色のかたまり』

作・演出：岩松了

9月21日(木)～10月1日(日)

彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター (大ホール内)

故・蜷川幸雄が率いた高齢者演劇集団が6年ぶりの新作に挑む！

さいたまゴールド・シアターが6年ぶりに挑む新作は、第1回公演『船上のピクニック』、第5回公演『ルート99』を書き下ろし、蜷川幸雄とのタッグで高齢者演劇集団の飛躍を牽引してきた岩松了の三作目となる書き下ろし作品を岩松自身の演出により上演。

主催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

お問合せ：彩の国さいたま芸術劇場チケットセンター 0570-064-939

<http://www.saf.or.jp>

バットシェバ舞踊団 / オハッド・ナハリ

『LAST WORK - ラスト・ワーク』

演出・振付：オハッド・ナハリ

10月28日(土)、10月29日(日)

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

オハッド・ナハリの豊かなイマジネーションが強靱なダンサーたちとつくりあげた、

現代へのメッセージ

世界のダンスシーンで最も注目を集めるイスラエルのカンパニー バットシェバ舞踊団が、日本初公開の『LAST WORK』を携えて来日する。ダイナミックな動きに宿る野性味と繊細さを併せ持つ、圧倒的な身体が放つ生命の踊りは、観客の心を捉えて離さない。

主催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

お問合せ：彩の国さいたま芸術劇場チケットセンター 0570-064-939

<http://www.saf.or.jp>

連携プログラム

『ミスター・ガガ 心と身体を解き放つダンス』

監督：トメル・ハイマン

10月14日(土)～未定

シアター・イメージフォーラムほか全国順次公開

8年間にわたってオハッド・ナハリンに長期密着した映画が待望の日本公開決定！

オハッド・ナハリンの振付作品のリハーサルに密着し、貴重な記録映像と息をのむダンスシーンで描かれる話題作。独自のダンス・メソッド「GAGA(ガガ)」を考案し、現代人の身体感覚や直感的な感性を目覚めさせてきたナハリン独自の世界に肉迫する。

提供：アクシー株式会社

配給：アクシー株式会社、プレイタイム

お問合せ：プレイタイム 080-3732-6809

<http://www.mrgaga-movie.com>

東京デスロック

『ARE YOU HAPPY ??? ～幸せ占う3本立て～』

演出：多田淳之介

9月30日(土)～10月14日(土)

STスポット

9年ぶりとなる東京デスロック3本立て公演はリメイク2作品と新訳新作による

幸せ占う3本立て!!! ARE YOU HAPPY ???

登場人物と観客の視点が交錯し自己統一性の危うさを愉快に描く『3人いる!』。30分の物語×3回、繰り返す物語、繰り返せない時間、疲弊する身体から圧倒的な生を描く『再生』。サムエル・ベケット『Happy Days』新訳初上演の豪華3本立て！

主催：一般社団法人unlock 東京デスロック

お問合せ：東京デスロック 080-3360-2180

<http://deathlock.specters.net>

STスポット 30th アニバーサリー ダンスセレクション

STスポット開館30周年。「いまここ」にある身体で「これまで」と「これから」を見出す。

STスポット開館30周年を記念し、STスポットとゆかりの深い新進気鋭の若手アーティストと第一線で活躍しているアーティストが集う。「いまここに存在する身体」に向き合うことで、これから先のダンスシーンの行く末を見出すことになるだろう。

お問合せ：STスポット 045-325-0411

<http://stspot.jp>

STスポット 30th アニバーサリーダンスセレクション vol.1

伊藤キム × 山下残 『ナマエガナイ』

演出・振付：山下残

10月18日(水)、10月19日(木)

STスポット

主催：伊藤キム × 山下残、認定NPO法人STスポット横浜

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

STスポット 30th アニバーサリーダンスセレクション vol.2

Aokid、岩渕貞太、岡田智代、モモンガ・コンプレックス ダンスショーケース

演出・振付：Aokid、岩渕貞太、岡田智代、白神ももこ

11月9日(木)～11月12日(日)

STスポット

主催：認定NPO法人STスポット横浜

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

STスポット 30th アニバーサリーダンスセレクション vol.3

山田うん × 楠田健造 新作デュオ公演

演出・振付：山田うん 楠田健造

11月17日(金)～11月19日(日)

STスポット

主催：認定NPO法人STスポット横浜

助成：公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

連携プログラム

カンパニーXY

『夜はこれから』

演出・振付・出演：カンパニーXY

10月20日(金)～10月22日(日)

世田谷パブリックシアター

身体が宙を舞い塔になる！人間の限界を軽やかに飛び越える、ダイナミックで美しいフランス発の現代サーカス

フランスを拠点に、世界中で注目を浴びる「カンパニーXY」。総勢22名の身体がおりなすアクロバットは、その技術と芸術性により「まさに現代サーカスがアートであることを証明した！」と各地で大絶賛。大迫力のステージに目が離せません。

主催：公益財団法人せたがや文化財団/アンスティチュ・フランセ東京

お問合せ：世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515

<http://setagaya-pt.jp/>

じゅんじゅん SCIENCE

『街角』

振付・演出：高橋 淳

11月2日(木)～11月5日(日)

BUoY 北千住アートセンター

東京の片隅、廃墟の地下に現れる「街角」へようこそ。

とある交差点の風景。秩序、混沌、ドラマ、そして偶然で必然の神様の振付。信号が変わるたび、向こうから歩いてくる人々の群れは緩やかに自分を包み、そして後ろへ消えていく。何事もなかったかのように。緻密な動きで風景を描写するじゅんじゅん SCIENCEのダンスストーリー。

主催：じゅんじゅん SCIENCE

お問合せ：アングリエイティブ

03-6721-7970 (平日 11:00-18:00)

可児市文化創造センター

ala Collection シリーズ vol.10 『坂の上の家』

作：松田正隆 演出：高橋正徳

11月3日(金・祝)～11月10日(金)

吉祥寺シアター

失くした先に、あたらしい人生がある。家族の絆と人と人の縁を描く、静かな傑作。

「ala Collection シリーズ」は、過去の優れた戯曲に焦点を当て、俳優・スタッフが岐阜県可児市に滞在しながら作品を制作し全国に発信するプロジェクト。日常の生き活きとした情景の中に、家族の関わりや愛情、人と人の絆や葛藤を丁寧に描き、OMS 戯曲賞・大賞を受賞した松田正隆の傑作戯曲が現代演劇の旗手・高橋正徳の演出で蘇る。

主催：公益財団法人可児市文化芸術振興財団

協力：公益財団法人武蔵野文化事業団

平成29年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

お問合せ：石井光三オフィス

03-5797-5502 (平日 12:00-18:00)

http://www.kpac.or.jp/event/detail_768.html

フェスティバル/トーキョー実行委員会

顧問	野村 萬	公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会 会長 能楽師
名誉実行委員長 実行委員長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
	高野之夫	豊島区長
	福地茂雄	公益財団法人新国立劇場運営財団 顧問 アサヒビール株式会社 社友
副委員長	市村作知雄	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 顧問 フェスティバル/トーキョー ディレクター
	小澤弘一	豊島区文化商工部長
	東澤 昭	公益財団法人としま未来文化財団 常務理事 / 事務局長
委員	尾崎元規	公益社団法人企業メセナ協議会 理事長 花王株式会社 顧問
	熊倉純子	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 教授
	田中俊宏	株式会社資生堂企業文化部長
	鈴木敦子	アサヒグループホールディングス株式会社 CSR 部門 ジェネラルマネージャー
	鈴木正美	東京商工会議所豊島支部 会長
	永井多恵子	公益財団法人せたがや文化財団 理事長
	樋口友久	豊島区文化商工部文化デザイン課長
	岸 正人	公益財団法人としま未来文化財団 劇場開設準備担当課長
	蓮池奈緒子	公益財団法人としま未来文化財団 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) 支配人
	米原晶子	NPO 法人アートネットワーク・ジャパン 理事長
	葦原円花	フェスティバル/トーキョー 事務局長
	河合千佳	フェスティバル/トーキョー 副ディレクター
監事	佐々木美津子	豊島区総務部総務課長
法務アドバイザー	福井健策、北澤尚登	(骨董通り法律事務所)

フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局

ディレクター	市村作知雄
副ディレクター	河合千佳
事務局長	葦原円花
制作	十万垂紀子、荒川真由子、砂川史織、松宮俊文、三竿文乃、横井貴子、武田侑子、 岡崎由実子、藤井友理、細川浩伸、長田崇史、四宮章吾、山縣昌雄、横尾千穂
広報	小倉明紀子、神永真美
経理	堤 久美子
総務	米原晶子、平田幸来
票券	武井和美
技術監督	寅川英司
技術監督アシスタント	河野千鶴
照明コーディネーター	佐々木真喜子(株式会社ファクター)
音響コーディネーター	相川 晶(有限会社サウンドウィーズ)
アートディレクション	氏家啓雄(有限会社氏家プランニングオフィス)
イラスト	naomi@paris.tokyo
ウェブサイト	竹下雅哉(有限会社氏家プランニングオフィス)
ブックレット	降旗 剛(株式会社 FLAGS)
海外広報・翻訳	ウィリアム・アンドリュース
物販	渡辺 淳
コピーライティング	鈴木理映子
プログラム・コーディネーター	横堀応彦
中国プログラム・コーディネーター	小山ひとみ
ウェブマガジン編集	島貫泰介

開催概要

名称 フェスティバル/トーキョー17
会期 平成29(2017)年9月30日(土)～11月12日(日)
会場 東京芸術劇場
あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
南池袋公園
PARADISE AIR ほか



プログラム数 主催 14 プログラム
連携 12 プログラム

主催 フェスティバル/トーキョー実行委員会
豊島区/公益財団法人としま未来文化財団/NPO 法人アートネットワーク・ジャパン、
アーツカウンシル東京・東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

オープニングプログラム共催 国際交流基金アジアセンター

協賛 アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社資生堂

後援 外務省、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、J-WAVE 81.3 FM

特別協力 西武池袋本店、東武百貨店池袋店、東武鉄道株式会社、株式会社サンシャインシティ、チャコット株式会社、株式会社ヒューマックスシネマ

協力 東京商工会議所豊島支部、豊島区商店街連合会、豊島区町会連合会、一般社団法人豊島区観光協会、一般社団法人豊島産業協会、公益社団法人豊島法人会、池袋西口商店街連合会、特定非営利活動法人ゼファー池袋まちづくり、池袋西口公園活用協議会、南池袋公園をよくする会、ホテルメトロポリタン、ホテル グランドシティ、池袋ホテル会

宣伝協力 株式会社ポスターハリス・カンパニー、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、アップリンク



平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業
(池袋/としま/東京アーツプロジェクト事業、としま国際アートフェスティバル事業)



tokyo-festival.jp

フェスティバル/トーキョー17は東京芸術祭2017の一環として開催されます。

※演目ページのクレジットに記載されている「フェスティバル/トーキョー」とは上記主催の略称です。

チケット情報

- 一般前売チケット発売日 8月27日(日) 10:00 開始
- 先行割引チケット発売日 8月23日(水) 10:00 ~ 8月26日(土) 19:00 まで 限定4日間
- 一般前売価格より約30% OFF。枚数限定**

F/Tならではのお得なチケット(主催プログラムのみ対象) 詳細はF/T公式HPへ。
・ペアチケット ・3演目セット券 / 5演目セット券 ・学生チケット ・高校生以下チケット

チケット取扱い

F/T チケットセンター 03-5961-5209 オンライン予約 <http://www.festival-tokyo.jp> (24時間受付)

開設期間 8/23 ~ 11/12 (12:00 ~ 19:00、8/23・8/27のみ 10:00 より受付) 会期中無休、8/28 ~ 9/29の期間は土・日・祝定休

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296
(休館日を除く 10:00 ~ 19:00/ 窓口販売あり)

オンライン予約 (PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki.jp/i/t/>
取扱チケット: 一部主催プログラムの先行割引・一般前売・ペア・学生・高校生以下
※有料託児サービス TEL: 0120-415-306
(長谷川キャリアサポート株式会社 わらべうた BS 課 (土・日・祝日を除く 平日 9:00 ~ 17:00)・要予約)

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード専用)

オンライン予約 <http://pia.jp/t/festival-tokyo/>
取扱チケット: 一部主催プログラムの先行割引・一般前売

カンフェティ 0120-240-540
(平日 10:00 ~ 18:00 オペレーター対応)

オンライン予約 <http://www.confetti-web.com/ft2017>
取扱チケット: 一部主催プログラムの先行割引・一般前売
※無料託児サービスあり

としまチケットセンター 03-5391-0516
(あうるすぽっと3階劇場事務所内)
(休館日を除く 10:00 ~ 19:00/ 窓口販売あり)

オンライン予約 <http://owlsport.jp/>
取扱チケット: あうるすぽっと上演公演の一般前売

※当日券は一般前売+ 500円で各会場受付にて販売いたします(学生・高校生以下チケットは前売と同料金)。

報道関係お問合せ

→ 広報に関するお問い合わせ
フェスティバル/トーキョー PR SUPPORT
HOW INC. TEL: 03-5414-640 FAX: 03-5414-6406
MAIL: pressrelease@how-pr.co.jp

→ ご掲載の場合の読者の方のお問い合わせ先
フェスティバル/トーキョー実行委員会事務局
TEL: 03-5961-5202

本プレスリリースの文字データや、使用画像等の宣材は下記からダウンロードいただけます。

<http://www.festival-tokyo.jp/17/news/category/press/>

※画像のご利用、フェスティバルや作品に関する情報をご掲載いただける折は、上記までご一報いただけますようお願い申し上げます。
※上記ダウンロードサイト内には素材に関してはお問合せください。
※個別の作品に関わる取材のお申し込み等もこちらにて承ります。



発行日: 2017年7月18日

※記載の情報は、7月18日現在のものになります。

※プログラムの内容等は変更になる場合がございます。